

(1) 教育長報告

年月日	曜	時刻	行事名	場所
24/11/25	月	14:00	教育委員会定例会	都南分庁舎 教育委員会室
24/11/26	火	10:30	総合教育会議	プラザおでって
24/11/27	水	14:30	㈱GSF社長・東日本支社長来訪	都南分庁舎 教育長室
24/11/28	木	13:20	岩手県小中学校副校長会研究大会	トーサイクラシックホール岩手
		18:00	岩手県小学校長会先輩と語る会	サンセール盛岡
24/11/29	金			
24/11/30	土	11:30	生出小学校閉校記念碑除幕式	生出小学校
		18:30	2024年盛岡市野球協会野球人の集い	アートホテル盛岡
24/12/01	日			
24/12/02	月			
24/12/03	火	13:00	【市議会】招集初日	本庁舎 議場
24/12/04	水			
24/12/05	木			
24/12/06	金			
24/12/07	土			
24/12/08	日			
24/12/09	月	10:00	【市議会】一般質問	本庁舎 議場
24/12/10	火	10:00	【市議会】一般質問	本庁舎 議場
24/12/11	水	10:00	【市議会】一般質問	本庁舎 議場
24/12/12	木	10:00	【市議会】一般質問	本庁舎 議場
24/12/13	金			
24/12/14	土			
24/12/15	日			
24/12/16	月	10:00	【市議会】議案質疑	本庁舎 議場
		17:00	盛岡市・うるま市中学生交流受入事業お別れ交流会	アートホテル盛岡
24/12/17	火	10:00	【市議会】総務・教育福祉常任委員会	本庁舎 委員会室
24/12/18	水	13:30	県中体連照井会長・津志田理事長来訪	都南分庁舎 教育長室
		16:00	県教委学校教育室長外2名来訪	都南分庁舎 教育長室
24/12/19	木			
24/12/20	金	13:00	【市議会】定例会最終日	本庁舎 議場
24/12/21	土	18:00	令和6年度盛岡芸術協会芸術功労者表彰及び盛岡芸術懇談会	アートホテル盛岡
24/12/22	日			
24/12/23	月	14:00	第2回盛岡市教育振興基本計画懇話会	都南分庁舎 4階大会議室
24/12/24	火	14:00	教育委員会定例会	都南分庁舎 教育委員会室

(2) 令和6年12月市議会定例会の概要について

月日	質問議員 (会派)	答弁者	質問要旨	担当課 (関係課)
12/9	<一括質問>			
(月)	1 細川由香里 (創盛会)		【該当なし】	
	2 後藤百合子 (無所属)		【該当なし】	
	3 菊田隆 (盛友会)		【教育課題について】	
			(1) 学校独自のカリキュラムへの取組	
		教育長	・授業時数特例校制度を活用している学校について示せ。	学校教育課
		教育長	・国立教育政策研究所が実施した調査結果について考えを示せ。	学校教育課
		教育長	・カリキュラム編成の弾力化を取り入れる場合の課題について示せ。	学校教育課
			(2) デジタル教科書	
		教育長	・市内小・中学校のデジタル教科書の使用状況を示せ。	学校教育課
		教育長	・スウェーデンの現状をどう捉えているかについて考えを示せ。	学校教育課
		教育長	・市内小・中学校のデジタル教育の未来について考えを示せ。	学校教育課
			(3) 小学校における給食費無償化への取組	
		市長	・給食費無償化についての所見について伺う。	学務教職員課
		教育長	・給食費無償化についての所見について伺う。	学務教職員課
		教育部長	・先の衆議院選挙の公約を踏まえた国の状況についての所見について伺う。	学務教職員課
	4 鈴木聖子 (公明党)		【医療的ケアの必要な児童への支援について】	
		教育長	・看護師が孤立しない配慮について所見を伺う。	学校教育課
		教育長	・家族の方々の支援についての現状と課題について伺う。	学校教育課
	5 千葉順子 (盛友会)		【これからの中小企業振興について】	
		教育長	・小中学校における職業意識を持つ取組の現状と課題、今後の推進策について、教育委員会の所見を示せ。	学校教育課
	6 小笠原秀夫 (盛友会)		【学校教育について】	
			(1) ICT教育における指導環境	
		教育長	・文字や漢字の学習において、指とペンのどちらが効果的か。	学校教育課
		教育長	・ICT教育と従来の手法をバランスよく組み合わせることが大切と考えるが、教育長の所見を示せ。	学校教育課
		教育長	・「WEBフィルター」は導入・活用されているのか。	学校教育課
		教育長	・授業以外のことをしていないかの確認、端末の操作のサポートをする補助教員などの配置が必要ではないかと思うが、本市の状況はどうか。	学校教育課

月 日	質問議員 (会派)	答弁者	質問要旨	担当課 (関係課)
12/9 (月)			(2) いじめゼロに向けた取組	
		教育長	・保護者がいじめと判断して学校等に申し出た場合の対応を示せ。	学校教育課
		教育長	・孤立や仲間外れの実態についてどの程度把握しているかを示せ。	学校教育課
		教育長	・保護者同士のトラブルになった場合の取組について所見を示せ。	学校教育課
		教育長	・各学校においてソーシャルスキルトレーニングを導入することについての所見を示せ。	学校教育課
			【スポーツ振興について】	
			(2) 部活動の地域移行について	
		教育長	・学校、市教委、交流推進部の連携はこれまで以上に重要になるがどのように取り組むのか示せ。	学校教育課
12/10 (火)	7 高橋和夫 (日本共産党)		【該当なし】	
	8 庄子春治 (日本共産党)		【該当なし】	
	9 三田村亜美子 (日本共産党)		【学校給食について】	
		教育部長	・新たな学校給食センターの整備スケジュールは、条件によってどの程度の幅を見込んでいるのか。	学務教職員課
		教育部長	・ランチボックスの利用率が2割程度である理由をどのように分析しているのか。	学務教職員課
		教育部長	・二人以上の児童生徒がいる世帯の第2子以降の給食費を無償化するなどの取組についての所見を伺う。	学務教職員課
		教育部長	・統合後の北松園中学校の給食を、玉山学校給食センターから配食することについての所見を伺う。	学務教職員課
		市長	・全ての子どもたちへの給食提供の早期実現について所見を伺う。	学務教職員課
	10 中村雅幸 (市政クラブ)		【統合型校務支援システムの支援体制について】	
		教育長	(1) 雫石町と盛岡市のICT支援員数と学校に対する支援体制について示せ。	学校教育課
		教育長	(2) 年度末に予想されるサポート依頼の内容とその支援体制について示せ。	学校教育課
		教育長	(3) 統合型校務支援システム使用を原因とする時間外等在校時間に対する対応を示せ。	学校教育課
	11 寺長根浩 (創盛会)		【該当なし】	
	12 池野直友 (盛友会)		【教育行政について】	
		教育長	(1) 教員の健康状態・健康状況について	学務教職員課
			(2) 教員の成り手の確保について	
		教育長	・教員の成り手の確保に向けて、2年間、努めてきたことや前進できたことを伺う。	学務教職員課
		教育長	・今後の教員の成り手確保のために考えていることは何か。	学務教職員課
			(3) コミュニティ・スクールの状況	

月 日	質問議員 (会派)	答弁者	質問要旨	担当課 (関係課)
12/10 (火)		教育長	・コミュニティ・スクール導入に向けた支援の状況について伺う。	学校教育課
			(4) 盛岡市の特徴的な教育	
		教育長	・盛岡市の特徴的な教育について、また教育の質が変わる可能性があると感じる、市立高校の「特色入試」に関して、教育長の所見を伺う。	学校教育課
12/11 (水)	13 鈴木真吾 (盛友会)		【学校の今後の在り方について】	
			(1) 小中学校のＳＮＳ対応	
		教育長	・小中学校におけるＳＮＳ利用に関しての問題意識を示せ。	学校教育課
		教育長	・ＳＮＳ利用に関してどのような問題が出ているかを示せ。	学校教育課
		教育長	・ＳＮＳ利用に係る問題解決の方策を示せ。	学校教育課
			(2) 適正規模校実現に向けた取組	
		教育長	・玉山小中学校の統廃合に関する説明のスケジュール内容を示せ。	学務教職員課
		教育長	・玉山小中学校の跡地活用に対する地域や保護者の意見に対する市の方針について示せ。	学務教職員課
		教育長	・北松園小・中学校の地域や保護者への説明の状況について示せ。	学務教職員課
		教育長	・将来、適正規模に満たなくなる学校はどれくらいか示せ。	学務教職員課
		教育長	・児童生徒数や学校規模に関する現状と課題について示せ。	学務教職員課
		教育長	・適正規模校の実現に向けた具体的な方針や計画、地域住民や保護者との合意形成をどのように進めるか示せ。	学務教職員課
		教育長	・生徒の意見も取り入れるなどの方策について示せ。	学務教職員課
	14 山崎智樹 (盛友会)		【市民参画の促進について】	
		教育長	・まだ選挙権がない小中学生に対する主権者教育について、考えを示せ。	学校教育課
	15 神部伸也 (日本共産党)		【該当なし】	
	16 伊勢志穂 (市政クラブ)		【該当なし】	
	17 鈴木努 (日本共産党)		【該当なし】	
12/12 (木)	18 浅沼克人 (盛友会)		【子ども・子育て支援について】	
			(2) 家庭教育支援	
		教育部長	・家庭教育支援の取組について示せ。その中での課題について示せ。	生涯学習課
		教育部長	・様々な媒体やＩＣＴ等を活用した取組をどのように進めようとしているか示せ。	生涯学習課
		教育部長	・地域独自の家庭教育支援チームの構築やアウトリーチ型支援など、家庭教育支援の強化についての考えを示せ。	生涯学習課
			【障がい等のある子ども・若者支援について】	
			(2) 特別支援教育と就労	
		教育長	・特別支援教育への高まるニーズへの対応を示せ。	学校教育課

月日	質問議員 (会派)	答弁者	質問要旨	担当課 (関係課)
12/12 (木)		教育長	・支援体制強化や指導力強化をどのように図っていくか。	学校教育課
		教育長	・表彰状制度等で社会的評価をすることの効果をどのように考えるか。	学校教育課
		教育長	・特別支援教育においてキャリア教育をどのように推進するか。	学校教育課
		教育長	・小中学部から高等部までの系統的な職場体験活動としてどのように地域の地元企業等と連携を図っていくか。	学校教育課
			(3) 吃音に対する理解と支援	
		教育長	・幼児期や学童期の子どもや保護者に対して吃音の理解促進や相談支援としてどのような取り組みをしているか。	学校教育課
		教育長	・言語聴覚士の小中学校への配置状況は怎么样了っているか。	学校教育課
		教育長	・言語聴覚士による教育現場での支援体制強化をどのように考えているか。	学校教育課
		教育長	・吃音をはじめ障がい等を抱える若者たちの進学や就職の相談支援の在り方についてどのように考えているか。	学校教育課
19	豊村徹也		【該当なし】	
	(創盛会)			
<一問一答>				
1	佐藤尚弘		【小中学校の地域偏在について】	
	(日本維新の会)	教育長	(1) 児童減少対策の観点から、市中心部における小中学校の統廃合について、どのように考えるか。	学務教職員課
		教育長	(2) 児童増加対策の観点から、「教育環境保全のための住宅開発抑制」を実施する必要があると考えるが、所見を伺いたい。	学務教職員課
			【PTAについて】	
		教育部長	(1) PTAへの加入は義務であるか。	生涯学習課
		教育部長	(2) PTA事務員が給食費の徴収事務を担うことは適切であるか。	生涯学習課
		教育部長	(3) PTA事業において、デジタル連絡ツールの経費を支出することは適切であるか。また、市の事業として実施すべきと考えるが、所見を伺いたい。	生涯学習課
		教育部長	(4) PTAの適正運営に向けた通知及び周知を行う必要があると考えるが、所見を伺いたい。	生涯学習課
			【学校給食の運営及び将来計画について】	
		教育部長	(1) 大規模給食センター方式、親子方式（小規模センター）、自校方式それぞれの総費用及び実現までの期間について教示されたい。	学務教職員課
		教育部長	(2) 子どもの数が今後20年間で30%程度減少すると予想される中で、給食をすべて大規模センターで賄うことは、配食数の減少に効率的に対応できず、過剰投資となる可能性があると考えますが、どのように認識しているか。	学務教職員課
		教育部長	(3) 親子方式や自校方式を、子どもの数の減少に対応する調整弁とすることで、配食数の減少に効率的に対応できると考えるが、所見を伺いたい。	学務教職員課
		教育部長	(4) 給食センターの稼働率（稼働日数／365×稼働時間／24×100）について教示されたい。	学務教職員課
		教育部長	(5) 給食センターの稼働率を高めるための取組が必要であると考えますが、所見を伺いたい。	学務教職員課
		教育部長	(6) 給食センターの収益力を強化するため、長期休業中の学童弁当や高齢者向け配食など、多機能化及び公民連携について、どのように考えているか。	学務教職員課

月 日	質問議員 (会派)	答弁者	質問要旨	担当課 (関係課)
12/12 (木)		教育部長	(7) 「こども基本法」の施行を踏まえ、子どもたちが希望する給食方式を改めて確認する必要があると考えるが、所見を伺いたい。	学務教職員課
		教育部長	(8) 小学校給食費の無償化は、いつ実施される予定か。	学務教職員課
	2 村田芳三 (盛友会)		【該当なし】	
	3 櫻裕子 (盛友会)		【該当なし】	
	4 野中靖志 (市政クラブ)		【該当なし】	
	5 縄手豊子 (れいわ新選組)		【該当なし】	
	6 兼平孝信 (創盛会)		【該当なし】	
	7 太田隆司 (公明党)		【該当なし】	

(3) 専決処分の報告について

1 報告の趣旨

地方自治法（昭和22年法律第67号）第 180条第 1 項の規定により専決処分したものについて、同条第 2 項の規定により12月市議会定例会に報告事項として提出したので、報告するものである。

2 専決処分の内容

- (1) 盛岡市立見前小学校屋内運動場大規模改修（建築主体）工事の一部設計変更に伴う契約の変更（報告第 84 号）
- (2) 盛岡市立北陵中学校校舎大規模改修（建築主体）工事の一部設計変更に伴う契約の変更（報告第 85 号）

3 報告書

別紙のとおり

報告第 84 号

専決処分の報告について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第 180条第 1 項の規定により次のとおり専決処分したから、同条第 2 項の規定により報告する。

令和 6 年12月 3 日提出

盛岡市長 内 舘 茂

専決処分書

下記工事の一部設計変更に伴う契約の変更について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第 180条第 1 項及び盛岡市長専決条例（昭和23年条例第42号）第 2 条第 8 号の規定により、専決処分する。

工事件名	変更内容	専決処分年月日
盛岡市立見前小学校屋内運動場大規模改修 （建築主体）工事	契約金額「 284, 064, 000円」を 「 291, 670, 500円」に改める。	令和 6 年11月 7 日

報告第 85 号

専決処分の報告について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第 180条第 1 項の規定により次のとおり専決処分したから、同条第 2 項の規定により報告する。

令和 6 年12月 3 日提出

盛岡市長 内 舘 茂

専決処分書

下記工事の一部設計変更に伴う契約の変更について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第 180条第 1 項及び盛岡市長専決条例（昭和23年条例第42号）第 2 条第 8 号の規定により、専決処分する。

工 事 件 名	変 更 内 容	専決処分年月日
盛岡市立北陵中学校校舎大規模改修（建築主体）工事	契約金額「 886, 046, 700円」を「 886, 766, 100円」に改める。	令和 6 年11月12日

(4) 令和6年度第2回盛岡市社会教育委員会議の概要について

- 1 日 時 令和6年11月21日(木) 午後1時30分から2時47分まで
- 2 場 所 都南分庁舎 4階大会議室
- 3 出席者 社会教育委員17名、教育長、教育部長、教育次長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、歴史文化課長、遺跡の学び館館長補佐、中央公民館長、市立図書館長、区界高原少年自然の家所長、市民協働推進課長、歴史文化課2名、生涯学習課7名
- [オブザーバー出席] 公益財団法人盛岡市文化振興事業団事務局次長、もりおか歴史文化館活性化グループ総括責任者、盛岡サイエンスグループ子ども科学館長、第一商事株式会社見前南地区公民館長

4 内容

(1) 議事

- ア 第3次もりおか子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績について
- イ 石川啄木記念館及び盛岡市玉山歴史民俗資料館の開館時期の変更について
- ウ 令和7年度社会教育行政の基本方針と主要施策について
- エ 令和7年度文化財行政の基本方針と主要施策について
- オ 令和7年度社会教育関係団体への補助金の交付について
- カ 社会教育・文化財行政への提言
- キ その他

(2) その他

第67回全国社会教育研究大会岩手大会の進捗状況について

5 主な意見

No	質問意見等	回答
1	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 家庭での読み聞かせ実施率の低下について、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行した影響により、読み聞かせの時間が取れなかった家庭に対して、支援が必要ではないか。 (柿木和夫委員)	読み聞かせ実施率については、1歳6か月児健診時のアンケートの数値であるが、親御さんが仕事で忙しく、読み聞かせの時間を作るのが難しい状況もあるかと思う。今後、アンケートに読み聞かせができない要因を捉える項目を追加し、対策をとっていきたいと考えている。 (生涯学習課)
2	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 「読書をするのが楽しいと思う児童生徒の割合」について、中学生の令和3年度の数値が87.1%と突出して高かった理由は何か。 (柿木和夫委員)	新型コロナウイルス感染症流行中、家にいたことにより、ゲームやSNSに時間を割く一方で、本に触れる時間もできたのではないかとと思うが、はっきりとした要因分析はできていない。 (生涯学習課)

3	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 実績の対象期間はいつか。また、その実績をとりまとめるのはいつか。今後も、子どもの読書活動推進計画については、第2回の会議に諮るのか。 (山崎智樹委員)	岩手県子どもの読書状況調査は10月1か月間の実績だが、それ以外については4月から3月まで1年間の実績であり、6月下旬に開催する読書担当者会議で精査している。担当者会議の時期等、社会教育委員会会議に諮る時期も含めて今後検討していく。 (生涯学習課)
4	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 1か月で1回も本を読まなかった児童・生徒の割合（不読率）について、1か月で1回も本を読まなかった児童・生徒がいるということだが、学校で読書の時間があれば、それだけで本を読んだことになると思う。調査の仕方はどうなっているのか。 (佐賀敏子委員)	岩手県の調査に基づいており、対象の学年の1クラスを抽出し調査しているもの。実際には、小学校では朝読書や授業の合間など読書の時間を設けていると思うが、調査ではこのような結果で出てきている。 (生涯学習課)
5	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 読書ボランティア同士をつなぐ、核になる機関はあるのか。 (佐賀敏子委員)	当課で実施する読書ボランティア研修会において、団体に加入して活動したいという方に団体を紹介するなど、当課が窓口となり紹介を行っている。 (生涯学習課)
6	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 読み聞かせ実施率の低下の要因を捉えるアンケート項目について、保護者が家庭でSNSに触れる時間や、子どもがタブレット等で動画を見る時間について聞く項目を設けてはどうか。 (上野理恵子委員)	ご提案を参考に、検討していきたい。 (生涯学習課)
7	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 アンケートをとる際、自由記述にすると書かない人が多いので、選択肢形式だと答えやすいと思う。また、読み聞かせができるとすればいつできそうか、夕飯後や寝る前などの隙間の時間でもいいという気づきをもてるような内容にしてはどうか。 (関村和絵委員)	ご提案を参考に、検討していきたい。 (生涯学習課)

8	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 児童生徒一人当たりの貸出冊数とあるが、市立図書館がリニューアルオープンし、半年経った現在の児童書の貸出冊数の状況はどうか。 (高村光輝委員)	リニューアルオープン後は子ども連れの来館者が多く見られる。また、児童書の貸出冊数は、休館前の令和2年度と比較し若干増加している。 (市立図書館)
9	【子どもの読書活動推進計画に係る令和5年度実績】 1歳6か月児健診時の読み聞かせについて、読み聞かせの方法の見本を見る良い機会とだと思う。もう少し早い段階で、同じ月齢の子どもが一堂に会する機会があっても良いのではないか。 (小野寺麻里子委員)	1歳6か月児健診時の読み聞かせ以外にも、新生児訪問の際の啓発リーフレットの配布も行っている。引き続き、取組を進めていきたい。 (生涯学習課)
10	【令和7年度社会教育行政の基本方針と主要施策】 少年指導員制度の運用について、現在はどうのような状況か。 (中村利之委員)	新規に少年指導員となる方の養成講座(全13回)を開催しており、今年度は2名受講した。主な活動としては、子ども会育成会の世話人や小学校への援助・助言、ドッジボールの指導、野外活動等を行っている。9月2日現在、106名が少年指導員として登録している。 (生涯学習課)
11	【その他】 中学校を見に行った際、背が高く、身長と学校の机・椅子の高さがあっていない子どもが何人かいた。そういった子どもたちに対する配慮はどうなっているか。 (鎌田まき子委員)	そのような生徒がいる場合、各学校で何らかの調整をしていかなければならない。関係課を通して、高校から借りてくるなどの対応が必要になると思う。各学校で同様の状況があるかも含めて把握していきたい。 (教育長)

議案第 21 号

令和 6 年度盛岡市教育委員会点検評価報告書について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第 162号）第26条の規定により、令和 6 年度に盛岡市教育委員会が実施した事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、別紙のとおり報告書を作成するものとする。

令和 6 年12月24日提出

盛岡市教育委員会教育長 多 田 英 史

提案理由

教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しようとするものである。

令和6年度 行政評価結果

【第1巻 事後評価】

評価からはじめるまちづくり

令和7年1月

盛岡市

【施策評価（令和5年度実績評価）】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力があふれるまちづくり
施 策	11	歴史・文化の継承
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	下田 法子 教育部長	
評価シート作成者	鈴木 茂也 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

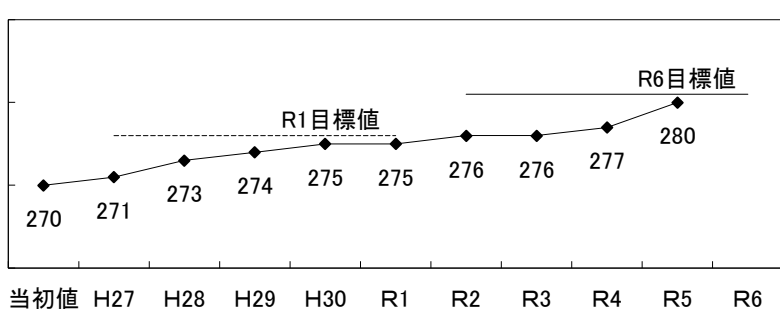
施策の目的（総合計画実施計画から転記）	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
地域に受け継がれている歴史や文化に誇りを持ち、次世代に伝えていくため、文化財の保護に取り組むとともに、市民が歴史や文化に理解を深め、身近に感じることができるよう、文化財の幅広い活用を図る。	・有形文化財の管理体制を維持するため、所有者への財政的支援や保存管理に関する指導・助言を行う必要がある。 ・無形文化財の継承のため、鑑賞や体験活動の機会を設けるとともに、情報発信に努める。 ・埋蔵文化財の保護と活用のため、展示会や体験学習を実施するとともに収蔵施設の整備の可能性について検討する。 ・博物館施設の整備のため、市の計画に位置付けるなど計画的な施設改修に取り組む。 ・博物館施設の活用のため学校のニーズに基づいた企画の検討やプログラムの充実を図る。

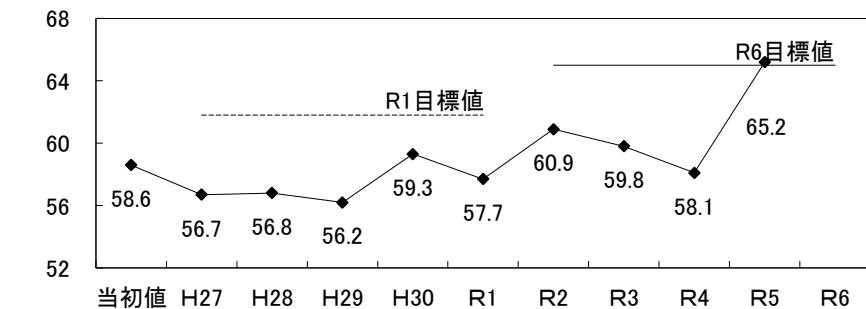
施策の概要

主な取組内容
文化財の保護については、指定となっている有形・無形の文化財の存続を図るとともに、無形民俗文化財保持団体への支援を行った。また、埋蔵文化財については、適切な調査・記録と保存・展示を行った。 博物館等施設の整備・充実については、石川啄木記念館・玉山歴史民俗資料館の整備において、大規模改修及び増築工事等を実施したほか、既存9施設の活用が図られるようPR活動に取り組んだ。

進捗の評価（4段階）：「目標値に到達（☆）」、「目標値に向け順調に推移（◎）」、「目標値に向け推移（○）」、「遅れが生じている（△）」

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価					
指標①	文化財数(国・県・市指定)	単 位	目指す方向	◎ 目標値に向け順調に推移					
		件	↗						
当初値 (H25)	270	R1目標値	276	R6目標値	281	・既存の文化財等は、保護のための環境、保存整備や調査、保存維持への助成や、保存継承団体への育成支援、活用などに取り組み、存続することができた。			
									
※H28実績値に誤りがあったため修正している									

実績値の推移				進捗の評価					
指標②	まちづくり評価アンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向	☆ 目標値に到達					
		%	↗						
当初値 (H25)	58.6	R1目標値	61.8	R6目標値	65.0	・盛岡城跡保存整備事業や埋蔵文化財調査事業、博物館等での歴史・文化財を活用した事業や現地説明会等の周知を図り、市民に学習機会を提供することができた。 ・まちづくりアンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合は上昇し目標値を上回ったが、引き続き市民の歴史や文化への関心を高める事業に取り組む。			
									

進捗の評価（4段階）：「目標値に到達（☆）」、「目標値に向け順調に推移（◎）」、「目標値に向け推移（○）」、「遅れが生じている（△）」

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今 後 の 方 向 性
11-1	文化財の保護と活用	・指定となっている有形・無形の文化財等を存続できた。 ・有形の文化財等は、周辺の環境も含め、適切な保存・修繕が難しくなってきた。 ・無形民俗文化財は、深刻な後継者不足に直面している団体もあり、民俗芸能保持団体の特性に応じた対策が必要となっている。 ・埋蔵文化財の出土資料は、増え続けており、従来の施設には収まりきれず、仮設の施設にも仮置きしている状況である。	・有形文化財等の保存・修繕のため、町内会等地元住民への協力要請を行うとともに、必要に応じて、支援や助言を行う。 ・盛岡市歴史的風致維持向上計画等に基づき、補助制度を活用しながら、文化財の保護と活用に取り組む。 ・民俗芸能保持団体の後継者不足については、盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会と連携し、地域の子どもたちに民俗芸能への興味を持ってもらう機会を提供するなど、後継者の育成を支援します。 また、民俗芸能を紹介するPR動画を活用し、YouTubeやSNS等により、踊りの魅力を全世界に向け発信するほか、盛岡市芸術文化ポータルサイトに団体やイベントの情報を掲載し、民俗芸能の周知を図る。 ・埋蔵文化財発掘調査に伴い、増え続ける出土資料について、保管に適した空き教室を利用するなど、収蔵場所の確保を図る。 ・文化財保存活用地域計画の策定に向けて、未指定の文化財も含め、文化財をまちづくりに生かしつつ、地域社会との協働でその承継にどのように取り組むか等、協議・検討・調査を進める。
11-2	博物館等施設の整備・充実	・アメリカのニューヨーク・タイムズ紙（電子版）が発表した「2023年に行くべき52カ所」に盛岡市が選ばれ注目されたことから、外国人を含めた観光客が増加したほか、各施設でSNS・HP等を活用したPR活動に取り組んだことにより、令和5年度の博物館施設入館者数は4年度と比較して約40％の増加に転じ、大規模改修工事に伴う休館期間中の施設を除く7施設のうち、4施設の入館者数は、コロナ禍以前の水準に回復した。 ・各博物館等施設や設備は老朽化が進行しており、バリアフリー化など利用者の安全性・利便性の向上を図る必要が生じている。 ・石川啄木記念館・玉山歴史民俗資料館の整備については、大規模改修及び増築工事、展示制作業務委託を実施した。また、整備に係る市民意見を聴取するため、整備検討懇話会やワーキンググループ等を実施した。	・博物館施設の活用が図られるよう、魅力あるイベント等を開催するほか、効果的なPR活動を行う。 ・博物館施設については、いずれも老朽化が進行していることから、改修等の必要性や緊急性を考慮し、利用者の安全確保及び利便性の向上が図られるよう、計画的に対応する。 ・文化財保存活用地域計画の策定に向けて、文化財や歴史的価値の高い歴史遺産の保存・活用の在り方を検討する。

【施策評価(令和5年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施 策	17	子どもの教育の充実
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	下田 法子 教育部長	
評価シート作成者	鈴木 茂也 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
子ども一人ひとりの個性をいかし、学力を定着させ、生きる力を育むことができるように、学校や家庭、地域などが連携しながら、子どもの教育の充実と健全な育成を図る。	・小中学生の学力に関する諸調査の結果を踏まえた指導に取り組み、児童生徒一人ひとりの資質と能力の向上に努める。 ・体力運動能力の更なる向上に向け、教員の指導力向上を図るとともに児童生徒が運動する機会の確保に努める。 ・幼稚園教育は、幼児教育と小学校教育の相互理解の更なる深化と円滑な接続の向上を図る必要がある。 ・高等教育は、教育活動の魅力化を図るとともに次代を担う人材の育成に取り組む。 ・教員の指導力向上のため、個々のニーズに応じた研修を実施するとともに研究員研究成果の普及に努める。 ・学校施設の整備と充実のため、老朽化した校舎や設備の改修に計画的に取り組む。 ・小中学校プールの老朽化対策のため、「盛岡市小中学校水泳プール対応方針」の着実な推進を図る。

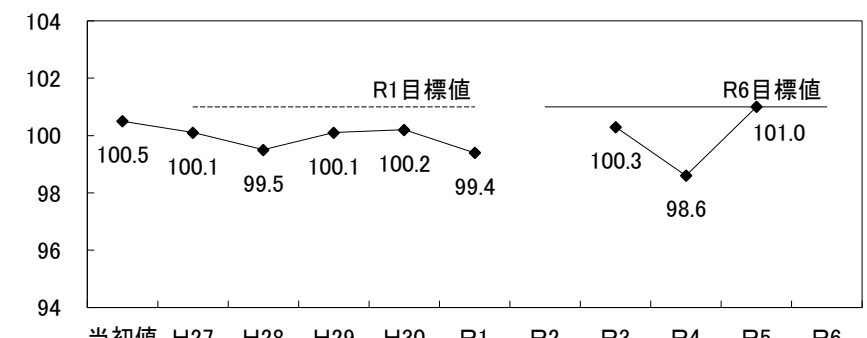
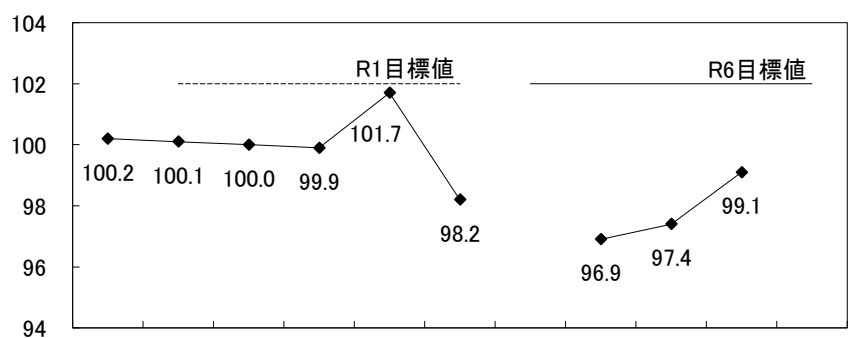
施策の概要

主な取組内容
・教員の指導力向上のための取組を行い、児童生徒の学力向上を図るとともに、道徳教育・先人教育の充実などにより、豊かな心の育成を進めた。 また、スクールアシスタント68名や不登校対策相談員15名を配置し、個別に配慮が必要な児童生徒への支援に取り組んだ。
・学校施設について、校舎の大規模改修工事、校舎トイレ改修工事、屋内運動場トイレ環境整備及び校舎の安全対策修繕を行ったほか、施設の適切な維持保全に努めた。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
幼児	健やかな成長が図られている。
小中学生	学力の向上が図られている。 心身ともに健全育成が図られている。
高校生	学力の向上が図られている。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られている。
教員	誠実公正でかつ指導力が向上されている。
小中学校施設等	充実した教育環境に整備され、良好に保たれている。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生:国語】	単 位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている	
当初値 (H25)	110.6	R1目標値	113.0	R6目標値	113.0
				・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の全国比では、「読むこと」領域の全国比が109、「話すこと・聞くこと」領域が110、「書くこと」領域が113となっており、いずれも全国平均を上回っている。 ・「漢字の書き・ローマ字書き」「漢字の読みと構成・辞書の活用」の[知識及び技能]に係る内容が、他領域に比べて低い傾向にある。 ・[思考力、判断力、表現力等]に係る授業が多くなり、基礎的な[知識及び技能]にかける時間が不足していると考えられる。	
指標③	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:国語】	単 位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている	
当初値 (H25)	103.8	R1目標値	107.0	R6目標値	107.0
				・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「話すこと・聞くこと」の全国比が104、「書くこと」領域が103、「読むこと」領域が105となっており、いずれも全国平均を上回っている。 ・「敬語の使い方」「漢字の書き」の[知識及び技能]に係る内容が、他の内容と比べて低い傾向にある。 ・[思考力、判断力、表現力等]に係る授業が多くなり、基礎的な[知識及び技能]にかける時間が不足していると考えられる。	
指標⑤	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:英語】	単 位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている	
当初値 (H25)	103.2	R1目標値	105.0	R6目標値	105.0
				・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均よりやや低い水準であった。各領域の正答率では、「書くこと」領域の全国比が93、「聞くこと」領域が96、「話すこと」領域が97、「読むこと」領域が98となっており、いずれも全国平均を下回っている。 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスのとれた指導の継続が必要と考えられる。	
指標②	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生:算数】	単 位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている	
当初値 (H25)	108.4	R1目標値	110.0	R6目標値	110.0
				・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「図形」領域の全国比が104、「数と計算」領域が107、「量と測定・データの活用」領域が103となっており、いずれも全国平均を上回っている。 ・誤答率が5割以上である小問内容3項目は、いずれも「図形」領域の内容である。 ・「関連付けて考える」学習活動の不足から、図形の性質や図形の作図の根拠の理解不足が考えられる。	
指標④	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:数学】	単 位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている	
当初値 (H25)	102.2	R1目標値	105.0	R6目標値	105.0
				・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、各領域の正答率を見ると「図形」領域が104、「データの活用」領域が101となっており、全国平均を上回っている。 ・各領域の正答率の「数と式」領域が全国比91、「関数」領域が96となっており、全国平均を下回っている。 ・生徒が「数学的な見方・考え方」を働かせて、論理的、統合的・発展的に考える機会や、表・式・グラフを関連させながら事象について考察したり表現したりする機会が不足していると考えられる。目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取る学習の機会が不足していることが考えられる。	
指標⑥	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生:男】	単 位 ポイント	目指す方向 ↗	◎ 目標値に向け順調に推移	
当初値 (H25)	97.8	R1目標値	101.0	R6目標値	101.0
				・50m走、20mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、長座体前屈、握力、上体起こしの8種目の調査 ・令和4年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)、上体起こし(筋力・筋持久力)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(走力)、立ち幅跳び(瞬発力)の体力の向上がみられる。 ・令和5年度の全国標準値と比較すると、すべての種目で全国平均値を下回っている現状である。 ・登下校時の保護者による送迎が増えてきたことも要因の一つと考えられる。 ・体育・保健体育の授業改善やSAQを取り入れたウォーミングアップ等の取組を実施していることが要因で、全国標準値は超えていないが上昇傾向にあるため引き続き体力向上に取組を進めていく。	

実績値の推移					進捗の評価				
指標⑦	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生:女】			単 位	目指す方向	★ 目標値に到達			
				ポイント	↗				
当初値 25.0		100.5		R1目標値 101.0		R6目標値 101.0			
					・50m走、20mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、長座体前屈、握力、上体起こしの8種目の調査 ・令和4年度の全国標準値と比較すると、上体起こし(筋力・筋持久力)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(走力)、立ち幅跳び(瞬発力)、ソフトボール投げ(投力)の体力の向上がみられる。 ・令和5年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)、50m走(走力)、立ち幅跳び(瞬発力)において、全国平均値を下回っている現状である。 ・登下校時の保護者による送迎が増えてきたことも要因の一つと考えられる。 ・体育・保健体育の授業改善やSAQを取り入れたウォーミングアップ等の取組を実施していることが要因で、全国標準値は超えていないが上昇傾向にあるため引き続き体力向上に取組を進めていく。				
指標⑨	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:女】			単 位	目指す方向	◎ 目標値に向け順調に推移			
				ポイント	↗				
当初値 (H25)		100.2		R1目標値 102.0		R6目標値 102.0			
					・50m走、20mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、長座体前屈、握力、上体起こしの8種目の調査 ・令和4年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)、長座体前屈(柔軟性)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(走力)、立ち幅跳び(瞬発力)、ハンドボール投げ(投力)の体力の向上がみられる。 ・令和5年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)、上体起こし(筋力・筋持久力)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(走力)、立ち幅跳び(瞬発力)において、全国平均値を下回っている現状である。 ・コロナ禍をきっかけとして在宅で過ごす習慣が継続していることで、運動時間が減少したことが要因の一つと考えられる。				

進捗の評価(4段階):「目標値に到達(☆)」、「目標値に向け順調に推移(◎)」、「目標値に向け推移(○)」、「遅れが生じている(△)」

実績値の推移					進捗の評価														
指標⑧	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:男】			単 位	目指す方向	◎ 目標値に向け順調に推移													
				ポイント	↗														
当初値 (H25)		100.4	R1目標値		102.0	R6目標値		102.0	・50m走、20mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、長座体前屈、握力、上体起こしの8種目の調査 ・令和4年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)、上体起こし(筋力・筋持久力)、長座体前屈(柔軟性)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(走力)、ハンドボール投げ(投力)の体力の向上がみられる。 ・令和5年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)、上体起こし(筋力・筋持久力)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(走力)、立ち幅跳び(瞬発力)において、全国平均値を下回っている現状である。 ・コロナ禍をきっかけとして在宅で過ごす習慣が継続していることで、運動時間が減少したことが要因の一つと考えられる。										
104 102 100 98 96 94 当初値 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R1目標値 R6目標値 <table><tr><td>100.4</td><td>99.9</td><td>101.0</td><td>99.6</td><td>101.0</td><td>98.1</td><td></td><td>98.4</td><td>96.9</td><td>99.4</td></tr></table>					100.4	99.9	101.0	99.6			101.0	98.1		98.4	96.9	99.4			
100.4	99.9	101.0	99.6	101.0	98.1		98.4	96.9	99.4										
指標⑩				単 位	目指す方向														
当初値 (H25)		R1目標値		R6目標値															

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今 後 の 方 向 性
17-1	小中学校教育の充実	○学力 1 小学校4年生 ・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきた。 ・児童生徒質問紙調査(5・6年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する児童が県及び全国平均を上回る状況が継続している。 (1)国語 ・「漢字の書き・ローマ字書き」「漢字の読みと構成・辞書の活用」の〔知識及び技能〕に係る内容が、他領域に比べて低い傾向にある。 ・〔思考力、判断力、表現力等〕に係る授業が多くなり、基礎的な〔知識及び技能〕にかかる時間が不足していると考えられる。 (2)算数 ・誤答率が5割以上である小問内容3項目は、いずれも「図形」領域の内容である。 ・「関連付けて考える」学習活動の不足から、図形の性質や図形の作図の根拠の理解が不十分である。 2 中学校2年生 ・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきた。 ・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が全国平均をやや下回る状況があるものの、学習と部活動とのバランスが図られている。 (1)国語 ・「敬語の使い方」「漢字の書き」の〔知識及び技能〕に係る内容が、他の内容と比べて低い傾向にある。 ・〔思考力、判断力、表現力等〕に係る授業が多くなり、基礎的な〔知識及び技能〕にかかる時間が不足していると考えられる。 (2)数学 ・各領域の正答率の「数と式」領域が全国比91、「関数」領域が96となっており、全国平均を下回っている。 ・生徒が「数学的な見方・考え方」を働かせて、論理的、統合的・発展的に考える機会や、表・式・グラフを関連させながら事象について考察したり表現したりする機会が不足している。目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取る学習の機会が不足している。 (3)英語 ・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均よりやや低い水準であった。各領域の正答率では、「書くこと」領域の全国比が93、「聞くこと」領域が96、「話すこと」領域が98、「読むこと」領域が98となっており、いずれも全国平均を下回っている。 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスのとれた指導の継続が必要である。 ○体力運動能力 1 小学校5年生 ・「体力向上」についての研究員研究を行い、体力向上研修において研修の成果の発表や実技の講習を行ったこと。 ・体育の授業での運動量確保や、盛岡市とスポーツ協会と協力し、SAQトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考えられる。 (男子) ・令和5年度の全国標準値と比較すると、すべての種目で全国平均値を下回っている現状である。 (女子) ・対象児童の過去の体力調査結果と比べると、50m走(スピード)が全国標準値を下回っている現状である。 2 中学校2年生 ・「体力向上」についての研究員研究を行い、体力向上研修において研修の成果の発表や実技の講習を行ったこと。 ・体育の授業での運動量確保や、成長期にある生徒が、運動、食事、休養、睡眠のバランスの取れた生活を送ることができることにより、基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考えられる。 (男子) ・令和5年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)、上体起こし(筋力・筋持久力)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(走力)、立ち幅跳び(瞬発力)において、全国平均値を下回っている現状である。 (女子) ・令和5年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)、上体起こし(筋力・筋持久力)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、50m走(走力)、立ち幅跳び(瞬発力)において、全国平均値を下回っている現状である。	○学力 ・校内研究会等において、全市の共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、目的や条件を踏まえて書く活動、適切に表現する学習活動に重点を置きながら「考えを深める学び合い」の保障等「児童生徒一人一人に資質・能力を育成することを目指した授業改善」につながる具体的な指導・助言を行う。 ・「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。 ・各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。 ・家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。 ・GIGAスクール構想に基づき、令和3年度に全小中学校に導入した一人一台端末に加え、令和5年度導入のAI型ドリルの効果的な活用により、一人一人の理解度に合わせた最適な学びを目指す。 ○体力運動能力 1 小学校 ・60プラスプロジェクト(「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活」)とも関連させながら、体力向上及び肥満予防・改善を図っていく。 ・体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ・「体力向上」について、研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ・体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用) 2 中学校 ・60プラスプロジェクト(「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活」)とも関連させながら、体力向上及び肥満予防・改善を図っていく。 ・体育の授業や、部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ・体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ・「体力向上」について、研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ・体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)

小 施 策		成果点・問題点
17-2	幼稚園教育の充実	・一人一人の幼児理解に基づく個の特性に応じた指導や、異年齢のつながりを重視した教育活動に努めるとともに、幼稚園から保護者に対し積極的な情報発信に取り組むことにより、保護者の満足度は目標を達成することができた。 ・保育所のニーズが高まり、保育料の無償化のほか、地域内における私立幼稚園の複数設置などの状況から、園児数の減少が顕著である。各幼稚園では、園児の減少に伴い集団が小規模となり、幼児同士の人間関係の固定化や体験できる遊びの限定など、集団生活を通して身につけなければならない社会性をはぐくむ教育環境を確保することが引き続き難しい状況となっている。
17-3	高等学校教育の充実	・多くの生徒が、志望する大学や専門学校に進学するとともに、20年連続就職率100%を達成している。 ・進学率、就職率の向上に向けた取組を充実させるとともに、生徒が進路目標を決定するに当たり、自分らしい生き方を実現するための資質の育成や、将来就きたい職業について考える機会の充実が求められている。 ・生徒の多様な進路目標が達成できるよう学力向上に取り組むとともに、コミュニケーション能力を高める対話型授業及びICT教育の充実が必要である。
17-4	教職員研修の充実	・参加者アンケートでは、満足度は高い(4段階評価のうち3と4が多く、平均3.79)。 ・令和3年度及び4年度と比較すると満足度は上がっている。 ・満足度の向上は、研修講座の内容が教員のニーズと合致することが大切であり、今後もこの視点から講座内容を検討していく必要がある。また、開催時期の検討も、県教育委員会による研修をはじめとする他の事業との調整を、可能な限り行っていく必要がある。
17-5	学校施設の整備・充実	・校舎1件、屋内運動場1件の大規模改修工事を完了した。2件の屋内運動場改修工事実施設計を完了した。 ・学校校舎のトイレ改修工事を7件完了した。 ・屋内運動場のトイレ環境整備について4件の修繕及び3件の実施設計を完了した。 ・学校校舎の安全対策について2件の修繕及び7件の実施設計を完了した。 ・学校を含む公共施設について、限られた財源を効果的に活用し、計画的な保全の実施と施設の長寿命化を図り、次世代に大きな負担を強いることなく、「公共施設の保有の最適化」を推進し、持続可能な市民サービスの提供を目指す必要があるが、限られた財源の中、「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」のスケジュールに基づく大規模改修を実施できておらず、進捗が遅れている。

今後の方向性
・一人一人の子どもの性格や長所等を把握したきめ細やかな幼児教育を提供し、異年齢集団の教育活動の充実とともに、園だよりを中心に保護者への情報発信を図る。 ・幼児教育と小学校教育の相互理解と円滑な接続を図るため、アプローチ期のカリキュラムの活用を更に充実させ、近隣小学校との交流活動の推進を図る。 ・園児数の減少により、教育活動が限定されたり、集団生活を通してはぐくむ資質・能力の育成が困難な状況となっていることから、存続や閉園も含めた今後の園の在り方について、保護者や地域住民への説明を継続していく。 ・市教委学校教育課による研修事業とともに、いわて幼児教育センターの幼児教育専門員訪問支援事業も周知し、園内研修の充実を図ることにより、教員の資質向上に努める。
・キャリア教育の充実を図るため、普通科・商業科における「総合的な探究の時間」を通して、社会経済の仕組みや職業に関する知識等を学び、職業選択や将来設計のための能力を育成する。 ・一人一人の進路目標の実現に向けて、きめ細やかな指導体制を確立するとともに、進路実現を支えるための教員・保護者向けの研修会・説明会を充実させる。 ・デジタル人材育成のため、DXハイスクール事業を活用してICT教育の環境整備をおこなうとともに、教員向けセミナーへの参加及び外部講師による生徒への授業を実施し情報リテラシーの高揚を図る。
・ICT活用講座、コミュニティ・スクール講座は、喫緊の課題でもあることから、6年度も開催する。 ・講座の内容に応じて、各学校の効果的な実践事例を取り上げ、2学期からの教育活動の充実を図る。 ・県教育委員会が開催する、教育課程説明会や学校行事等の開催期日等について確認しながら、開催する。
・「長寿命化工事実施マニュアル」に基づき、事業費の精査を行い、限られた財源を効果的に活用することにより、将来にわたって様々なニーズに対応できる施設整備に努めていく。また、「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」の改訂を受け、令和5年3月に改訂した「盛岡市立小中学校校舎安全対策改修計画」及び令和3年7月に改訂した「盛岡市有公共施設トイレ環境整備計画」に基づき、小中学校施設について集中的に取り組む。 ・「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」と整合を図りつつ、施設の複合化が円滑に進むよう関係団体、関係部署等と緊密な調整を進めていく。 ・学校プールの老朽化への対応として、早急な対応が必要と考えられる築年数40年以上のプールが設置されている学校について、「盛岡市小中学校水泳プール対応方針」に基づき、民間施設の活用、市有プール施設の活用及び大規模改修をそれぞれ進める。

【施策評価（令和5年度実績評価）】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	18	生涯学習の推進
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	下田 法子 教育部長	
評価シート作成者	鈴木 茂也 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的（総合計画実施計画から転記）	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もが楽しみや生きがいを持ち、豊かに暮らすことができるように、いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築を図る。	・学習機会の充実と幅広い年齢層の利用促進を図るため、多様化する学習ニーズの把握に努めるとともに市民の学習意欲を喚起する取組を進める。 ・地域活動の担い手が不足している現状を踏まえ、リーダー育成のための研修やリーダーによる活動の充実を図る必要がある。 ・社会教育施設の改修については、「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化計画」等に位置付け、計画的に実施する必要がある。

施策の概要

主な取組内容
公民館等で市民ニーズを把握するとともに、家庭教育支援・青少年教育・成人教育・高齢者教育・芸術文化活動・生涯学習推進・地域連携など、ライフステージ等に応じた幅広いテーマによる学習機会の提供に努めた。 また、利便性の向上や災害時に避難所となる公民館のインフラ整備として、公民館6館（中央、上田、西部、河南、都南、洪民）では、Wi-Fi等の供用を開始した。また、市立図書館耐震補強及び大規模改修工事や、飯岡地区公民館等既存施設と都南老人福祉センターの複合化に伴う工事が完了したほか、見前及び飯岡地区公民館に新たにエアコンを整備するなど、市民の良好な学習環境の整備に努めた。

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民	学習活動の継続と推進が図られている
社会教育施設	計画的な整備や修繕が実施されている

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの学習をした」と答えた市民の割合	単 位	目指す方向		
		%	↗		
当初値 (H25)	40.6	R1目標値	43.9	R6目標値	47.2
・進捗の遅れの要因としては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う市民の活動自粛や、ライフスタイルの多様化、情報通信機器の発達等による、市民の学び方や社会教育施設に求める学習に対する意識の変化があるものと考えられる。 ・社会教育施設における学習講座は、市民要望の多い学習テーマ(要求課題)だけでなく、防災や環境など社会的課題の学習テーマ(必要課題)への取組が求められることから、両者のバランスをとりながら意欲的な学びにつながるプログラムを検討する必要がある。 ・学習活動の機会や時間の確保が難しい勤労青年層の参加者が少ないことが課題であり、ニーズ把握や、講座の開催日時、内容について検討する必要がある。					

実績値の推移				進捗の評価	
指標②		単 位	目指す方向		
当初値 (H25)	R1目標値	R6目標値			

進捗の評価（4段階）：「目標値に到達（☆）」、「目標値に向け順調に推移（◎）」、「目標値に向け推移（○）」、「遅れが生じている（△）」

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今 後 の 方 向 性
18-1	社会教育の充実	・家庭教育支援に係る講座の開催、家庭教育情報誌の発行、青少年教育事業の実施、社会教育関係団体への活動支援などにより、市民の学習機会の充実が図られるとともに、中学生や青年のリーダーが育成されている。 ・学びの循環推進事業では、多彩な講座メニューを用意し市民の継続的な学習活動に活用されているが、岩手大学と連携し教員を講師として派遣する「専門コース」を設定しているが、利用件数が少ない。 ・多彩な講座の開催に努めたが、講座により参加者数に偏りがあるほか、勤労青少年層が少ない。	・家庭教育支援や青少年教育など社会教育に係る学習機会の充実と団体の育成支援を継続するとともに、引き続き中学生リーダーや青年リーダーの育成を図る。 ・岩手大学との連携強化を図り、市民ニーズの把握と社会的課題へのマッチングについて研究を進めるとともに、魅力ある講座等の企画・実施に向け、他大学との連携も視野に入れた検討を進める。 ・社会教育施設をより身近な施設として認識し利用してもらうため、周知方法を検討し、様々な媒体を活用した広報を展開する。
18-2	社会教育施設の整備・充実	・令和5年4月から、公民館6館（中央、上田、西部、河南、都南、洪民）においてWi-Fi等の供用を開始し、施設利用者の利便性向上や、避難所開設時に備えた公民館のインフラ整備に取り組んだ。 ・市立図書館耐震補強及び大規模改修工事が完了し、併せて新たにWi-Fiを設置して利用者の利便性向上に繋がる整備に取り組んだ。 ・見前地区公民館及び飯岡地区公民館に新たにエアコンの設置や照明の改修等を行ったほか、飯岡地区公民館においては、既存施設と都南老人福祉センターとの複合化に向けた整備を進め、施設の一体的な利便性の向上に取り組んだ。 ・老朽化が進む子ども科学館等の社会教育施設の計画的な修繕・改修を進める。	・「公共施設保有最適化・長寿命化実施計画」を踏まえ、また、整合を図りながら、計画の対象外となる施設の設備も含めた計画的な修繕や改修を行う。 ・子ども科学館について展示物の更新と併せた効果的な整備手法を検討するため「整備基本構想（案）」を策定する。